



東 日

朱
在
法
公
鑑
下

特別
A13
4452





朱蘆流分鑑下

目録

紋目式人母のらるる

昭宗和日季の風系

久乃あま入草の流分の評判

ひよの評判

朱蘆

朱権治分鑑下

紋日試人女あらしあらし



或田舎人乃云時東乃切くもんびとりの何そんき
ぞわとらう春云も切くぬい野大なりけり言案
中女乃ありしはい極女乃身持を海へせて法中
海外サレるやとく神御せりあつはらゆへり奉
登乃各云えらづりてお折れまはらかり。ま持の
以て張園林あんど所くまをり物もみららり
幕らうり内らり何そびく候あつ。こも朔日雲

志方下

三

みんごとくしつる日おのゝけ出らるるなり。そと幕おの
かぶつ柄の定紋と付てしらすも色ど。女音とてし
つまひをれぢやとよくかきう。海ふ原情小記破展を
るりあまごぢあゆり物と日と紋日とりひもまごぢとあま
てきて歌歌はぐんの日とくくひあややゆりあり

陽原村四季乃風集

せんをけりしあて衣袂もぞあはれたまひゆきと。よくそ
ゆひをまごぢとていんごいあし。つひあまごぢとてあはれそよ
川物どし。物音乃伽所の追風もあまらまのまごぢとてあはれ

ね。下ろまをまごぢもあはれまよふまを悦かんとし。ち鶴のしらべ
松をそととてしそらるるがざりるるまをひらかんとてあはれ
つらりあまごぢとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
町へ振出らぬ徳祐そらまをまよふまをあはれとてあはれとてあはれ
ひらあし。まごぢとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
そはあまごぢとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
ゆりしとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
潤三味乃音とあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ
流れのつらひらま。いなあまごぢとてあはれとてあはれとてあはれとてあはれ

三味

三

孝道育の程長も平代万代の法分を尊し。勝乃のびん
 ぞ海老。白髪年々野老もてもがりのまじりの。葉
 准をり。法らふいし。ちた子して。ふたあか。と
 一しうを結つて。かららうし。らみ。たう。そこ。お。か。み。や
 乃。さ。ら。う。ま。み。あ。り。け。す。ま。れ。ま。ん。ご。う。れ。た。た。あ。乃。其。み
 て。ど。う。し。や。し。も。す。あ。ん。ど。ご。う。の。つ。さ。子。鞠。つ。さ。な
 み。ど。わ。と。り。せ。ん。づ。は。さ。り。と。ど。け。あ。さ。物。う。ら。あ。を。あ。て
 や。み。な。み。け。り。と。ま。ら。ひ。鬼。板。ひ。ら。あ。う。し。つ。き。け。し。術
 を。あ。り。あ。ひ。す。と。ご。し。は。て。奉。座。入。り。し。の。ま。は。更

の。ゆ。と。して。庶。家。乃。西。年。お。と。座。ど。わ。の。上。下。み。結。ま。ん。
 そ。い。と。女。師。に。披。着。を。な。り。と。庶。お。ん。ど。ん。乃。法。礼。と。い
 い。ひ。あ。が。ら。海。座。う。ら。う。わ。ま。し。し。ま。う。ら。う。あ。う。丹。実。し。
 それ。く。乃。西。愛。ひ。し。う。ぐ。う。ひ。ら。り。し。う。ら。う。あ。う。あ。う
 と。年。う。り。乃。今。盛。あ。ら。び。あ。く。何。事。も。な。げ。し。あ。う
 せ。も。あ。あ。乃。長。格。の。西。ま。か。く。し。と。な。う。さ。せ。ら。ま。さ。あ。人。出
 ら。あ。ら。ん。乃。年。く。と。し。も。あ。ら。り。上。る。あ。り。さ。あ。ま。い。と
 く。あ。う。あ。つ。と。死。し。く。本。み。餅。の。生。ま。り。み。う。ま。し。ひ。り
 あり。田。舎。乃。子。た。い。女。乃。あ。り。と。い。と。う。う。と。て。あ。ら。し。り

三
 田舎
 口

と子^こ毎^まうしてさひうをあくほよりくりをき奉^{ほう}や
り子^こ者^{もの}がせひみんをりさむあ乃にぬどの腫^{しむ}
ぬいさるぐたふ。日月^{にげつ}り虎^こと寝^ねぬいさたさへ^{しやう}者^{もの}也
りもあづる日月^{にげつ}乃あよびとたはむりりし。物^{もの}毎
あつあつりうぬくまははゆさふいさ^ま文^{ぶん}いあつ
乃^の表^{ひら}れどし。ばさど所^{ところ}おそをらるるあつあつわがり
ぢもさ^さて^て庶^{しよ}りいばもさるるあつあつ。いさどいさどいさ
ぬ^ぬも^もさ^さあ^ある^るぐ^ぐい^いら^らし^し。あ^あま^まて^て悔^{くわ}し^した^たを
ぬ^ぬあ^ある^る希^きま^ま情^{じやう}を^を恨^{うら}む^むさ^さら^らぶ^ぶさ^さら^らぶ^ぶさ^さら^らぶ^ぶさ^さら^らぶ^ぶ

徳^{とく}分^{ぶん}乃^のを^をち^ちう^うそ^そめ^めあ^あま^まが^がす^す枕^{まくら}神^{かみ}の^のさ^さり^りあ^あひ^ひも
是^{これ}生^{せい}劫^{きやく}あ^ある^ると^とを^を神^{かみ}ぞ^ぞ念^{ねん}く^く。さ^さら^らほ^ほそ^そや^やか^から^ら
ふ^ふも^もあ^あま^まさ^さら^らふ^ふこと^{こと}あ^あく^くま^まん^んさ^さら^らふ^ふい^いさ^さし^しと^とあ^ある^る
も^もさ^さら^らり^り。思^{おも}ふ^ふく^くさ^さら^らふ^ふま^まで^でし^しら^らふ^ふま^まで^でし^し。長^{なが}老^{らう}
の^の市^{いち}は^は乃^のと^とり^りひ^ひし^し。禿^{かぶ}が^が大^{だい}和^わく^くか^かあ^あま^まど^ど。若^{わか}枝^えひ^ひが
し^し。大^{だい}使^しあ^あま^まさ^さら^らふ^ふこと^{こと}い^い曉^{あかつき}乃^の長^{なが}ま^まを^をあ^あり^りし^しと
ま^まい^いわ^わさ^さを^をあ^あり^りあり^り。彼^かれ^れも^もあ^あり^りは^はさ^さら^らり^り行^いき
奉^{ほう}を^をあ^あら^らし^し。他^たら^らぬ^ぬの^のま^まさ^さら^らす^すこと^{こと}あ^あづ^づ
して^{して}さ^さら^らり^りは^はさ^さら^らり^りと^とさ^さら^らり^りと^とさ^さら^らり^りと^とさ^さら^らり^り。



うらひどしく二人すあはれもしくらぶさふふいふんす
三月の枕のしるはるる三基中後日あもた。奉座のみふ
くしとあといんく。奉座乃二階より白く野
色の草葉を色やうみ。花のみの行よんかきだしく
と花出。葉あつたる。花より。花より。花より。花より。花より。
楊えらぶる。花より。花より。花より。花より。花より。
女房。花より。花より。花より。花より。花より。
くしとあといんく。奉座乃二階より白く野
色の草葉を色やうみ。花のみの行よんかきだしく
と花出。葉あつたる。花より。花より。花より。花より。花より。
楊えらぶる。花より。花より。花より。花より。花より。
女房。花より。花より。花より。花より。花より。

いあそこのしるはるる。二人すあはれもしくらぶさふふいふんす
くしとあといんく。奉座乃二階より白く野
色の草葉を色やうみ。花のみの行よんかきだしく
と花出。葉あつたる。花より。花より。花より。花より。花より。
楊えらぶる。花より。花より。花より。花より。花より。
女房。花より。花より。花より。花より。花より。
くしとあといんく。奉座乃二階より白く野
色の草葉を色やうみ。花のみの行よんかきだしく
と花出。葉あつたる。花より。花より。花より。花より。花より。
楊えらぶる。花より。花より。花より。花より。花より。
女房。花より。花より。花より。花より。花より。
くしとあといんく。奉座乃二階より白く野
色の草葉を色やうみ。花のみの行よんかきだしく
と花出。葉あつたる。花より。花より。花より。花より。花より。
楊えらぶる。花より。花より。花より。花より。花より。
女房。花より。花より。花より。花より。花より。

三十一

一

志も志もなるある又月夜も下りの月夜もあかぬ
のちをさし〜ざらぬもふもさふ〜神乃夜もあは
ぎ〜とあらず床のよふ草もあはるをの橋のやぐら
めてそふ袖もさし〜あやと昔の人もさであつ〜
うさう〜とさる〜のさる〜もさる〜さる〜さる〜
お月には夜園舎としておあはた〜さる〜さる〜
日影あもさ〜君もあ〜さる〜さる〜さる〜さる〜
涼〜蚊帳白〜さる〜さる〜さる〜さる〜
さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜
さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

湯河ぐり定焼もあは〜神乃夜もあは〜
ゆもさ〜さる〜さる〜さる〜さる〜
七月の年〜さる〜さる〜さる〜さる〜
ゆ〜とあ〜さる〜さる〜さる〜さる〜
さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜
さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜
さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜
さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

歌乃物枝のどろあまもすあぐもさのらしく扱ふ
 す盃千代の管あり紅葉は焼くほせーあつて先酒
 ねあまもすえあつて独舞のつゝさあ千勢万舞や
 ひとたきくともありあさし花の身やうぬしうれし
 もまるとあすあつて神杉の島あぐもまどりあぐも子あま
 一夜ああぞつて八千長一舞やまああつてさうりや
 ん中家あひぐく鈴虫ね虫ぐもあまのあまはあす先
 歌あ名負あま雀乃野色の霞あおらん二階う野づ
 のそくたあ千田子のま松うも世とくくもあつてあま

時花妹宵乃りまのあまもすあぐもさのらしく扱ふ
 ねあまもすえあつて独舞のつゝさあ千勢万舞や
 ひとたきくともありあさし花の身やうぬしうれし
 もまるとあすあつて神杉の島あぐもまどりあぐも子あま
 一夜ああぞつて八千長一舞やまああつてさうりや
 ん中家あひぐく鈴虫ね虫ぐもあまのあまはあす先
 歌あ名負あま雀乃野色の霞あおらん二階う野づ
 のそくたあ千田子のま松うも世とくくもあつてあま

と云ふはくつひも一塵八百ありて焼くはまき成り
情ぞと物ぞとあてりて徳ありくあまき若き一と父母
はせ乃れとあし。妙紙とくさるる事いほてく
あしよ事あすす。惟とて徳をきつてつとあまきと
りさゆし物初あし。さあもさああめ障乃つと三後
くさしゆくとも。外面の意皆并あまきとて入て
乃れ徳と夜又乃れと。まうと勅とあまきととた
みふさるるさうと。又いそふと。たあまきとくあまきと
あまきとともさるりしく。た乃れ事あまきとらひとたて

又い徳勢乃れとてい備浅乃れと。た乃れと
年乃れと。さあ曲輪乃れと。若況とまわらく事あまきと。
とゆしとらよつとみねくとも。事あまきと。乃れとら
と出しとてあまきと。徳とて死とらと。とらと。世とくあ
らつと。あまきと。あまきと。乃れと。あまきと。く。乃れと。ら
らつと。事あまきと。乃れと。あまきと。く。乃れと。ら
と。あまきと。乃れと。あまきと。く。乃れと。ら
しく。あまきと。三途と。あまきと。乃れと。あまきと。く。乃れと。ら
ら。あまきと。く。乃れと。あまきと。く。乃れと。ら

三途

三

跋

朱荏野人書

身哉太奇哉朱荏諸公便

野火通者通而足評看野

列女身鐵崑崙看評如菴

拔矣

萬屋庄兵衛

丸屋

源兵衛

延宝九年辛酉卯月吉日

